

## 会告 I

### 2022年第70回日本輸血・細胞治療学会学術総会のご案内（第4報）

会 期：2022年5月27日（金）～29日（日）

会 場：名古屋国際会議場

総 会 長：松下 正（名古屋大学医学部附属病院 輸血部）

副 総 会 長：加藤 栄史（愛知医科大学 輸血部・細胞治療センター）

総会長補佐：加藤 千秋（名古屋大学医学部附属病院 検査部）

テーマ：輸血医療の発展と社会への還元～今、求められる輸血・細胞治療とは～

#### 開催形式：

現時点では「現地開催」を想定していますが、今後の新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては現地 + Web 配信の「ハイブリッド形式」に変更させていただきます。最終的な開催形式の決定は、2022年1月～2月頃を予定しています。

#### 演題募集期間：

※締め切りました。多数のご応募をいただきありがとうございました。

#### 事前参加登録期間：

2022年2月下旬頃～4月末 ※予定

開催形式にあわせ、多少前後します。

#### 第70回総会事務局：

〒466-8560 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町 65

名古屋大学医学部附属病院 輸血部

TEL：052-744-2656 FAX：052-744-2610

#### 運営事務局：

株式会社メッド

〒451-6040 愛知県名古屋市西区牛島町 6-1 名古屋ルーセントタワー 40階

TEL：052-569-4808 FAX：052-569-4809

E-mail：70jstmct@med-gakkai.org

#### 学会本部事務局（学会入会申込等）：

一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会 事務局

〒113-0033 東京都文京区本郷 2-14-14 ユニテビル 5階

TEL：03-5804-2611 FAX：03-5804-2612

E-mail：info@mail.jstmct.or.jp

第70回学術総会ホームページ：<https://med-gakkai.jp/70jstmct/>

企画プログラム：すべて仮題

・特別講演・招請講演

CAR-T 細胞療法は、どこまで拡がるのか？  
 輸血トレーサビリティは必要か？  
 フィブリノーゲン製剤の今後の使用について  
 Muse 細胞

・教育講演

臨床研究の新しい指針の解説  
 研究倫理・利益相反  
 輸血教育・管理体制  
 適正使用・ガイドライン（緊急輸血も含む）  
 輸血合併症（感染症も含む）  
 輸血ケア（看護師教育，キャリア支援）  
 輸血検査 血液型，HLA，感染症検査  
 血栓・止血  
 移植・細胞治療  
 その他

・シンポジウム/パネルディスカッション/ワークショップ

International Hemovigilance  
 柔軟に対応できる輸血検査技師の育成  
 分子標的治療薬への検査室の対応  
 輸血・細胞治療領域における診療報酬上の問題点  
 溶血性貧血の新規治療と輸血の有効性（AIHA と PNH）  
 骨髄異形成症候群の治療（在宅輸血，Epo，アザシチジン，Pevonedistat）  
 バイオビジランス構築の可能性  
 先端技術を用いた輸血・細胞治療  
 臓器移植と免疫制御の最前線  
 新興再興感染症/近年の感染症の知見（国際委員会シンポジウム）  
 HLA 適合血小板の供給から使用までの現状と課題  
 若年層献血推進による輸血用血液の確保対策  
 合同輸血療法委員会活動と学会連携  
 臨床検査技師のタスクシフト/シェア  
 若手の登竜門～これからの臨床検査技師像を考える～  
 再生不良性貧血の薬物治療と輸血の開始タイミングについて考える  
 輸血時の bag の保管運用について  
 フィブリノーゲン製剤とクリオの適応  
 輸血領域における看護師の役割と課題，HLA 抗体と造血幹細胞移植免疫細胞療法における臨床検査技師（輸血認定技師）の役割  
 貯血式自己血輸血のエビデンスを探る  
 輸血・細胞治療における臨床研究の役割～各職種からのアプローチ  
 赤血球，血小板製剤の有効期限延長を考える  
 免疫チェックポイント阻害薬の有害事象（特に hem-irAEs）  
 社会にリスペクトされる輸血医療とは

他，共催ランチョンセミナー，共催シンポジウム，一般演題 等